

愛知県岡崎市におけるムササビの分布

立脇隆文*・伊與田翔太*・中嶋靖男*

Distribution of the Japanese giant flying squirrels in Okazaki City, Aichi Prefecture, Japan

Takafumi Tatewaki*, Shouta Iyoda* and Yasuo Nakajima*

(Abstract)

To clarify the distribution of Japanese giant flying squirrels in Okazaki City, Aichi Prefecture, we surveyed the presence or absence of feces of flying squirrels under trees (mainly coniferous trees) at 47 sites including shrine and temple forests from October to December 2020. As a result, 17 sites (36.2%) were confirmed to be inhabited by flying squirrels. Inhabitation of flying squirrels was confirmed in the eastern and northern parts of the city, but not in the western part of the city, where the survey sites were surrounded by urban areas and farmland, or in the south of National Route 1. Among the former city and town in Okazaki City, the percentage of confirmed inhabitants was higher in the former Nukata Town (15 of 20 sites; 75.0%) than in the former Okazaki City (2 of 27 sites; 8.0%). Of the 25 meshes surveyed, 12 (48.0%) were confirmed to be inhabited by flying squirrels, and 5 meshes that were not confirmed to be inhabited in the Red Data Book Aichi 2020 were newly confirmed to be inhabited. It was confirmed that the Japanese giant flying squirrel is widespread in the former Nukata Town of Okazaki City, and that it is distributed continuously with the surrounding cities of Toyota City and Toyokawa City.

はじめに

ムササビ *Petaurista leucogenys* (Temminck, 1827) は齧歯目リス科に属する樹上性の哺乳類である (Oshida, 2015)。ムササビは日本の在来種であり、本州、四国、九州に広く分布している (環境省自然環境局生物多様性センター, 2010)。ムササビの詳細な生息分布については、アンケート調査や (塩沢ほか, 1985)、社寺林における糞調査などによって調べられてきた (岡崎, 1999; 青木ほか, 2006)。ムササビは完全な植物食であり種子、葉、つぼみ、針葉樹の雄蕊、果実、花、樹皮などを食べ (Oshida, 2015)、大木

の樹洞の中で休息することから、ムササビの生息には大木の存在 (繁田ほか, 2009) や、森林の連続性 (矢光ほか, 2008) が重要であると考えられている。

愛知県において、ムササビは準絶滅危惧種に選定されており (愛知県, 2020)、豊田市 (子安ほか, 2016) や、蒲郡市・豊川市・豊橋市 (神戸, 1984) などに分布することが知られている。詳細な分布調査が行われた豊田市や豊川市においては、ムササビが面的に分布することが知られているが、それらの市に挟まれた岡崎市については、北部と南部の市境のメッシュに生息することが知られているだけであり、生息情報の空白地帯となっている (愛知県, 2020)。

* 人間環境大学人間環境学部環境科学科。University of Human Environments, Faculty of Human Environment, Department of Environmental Science, 6-2 Kamisanbonmatsu Motojuku, Okazaki, Aichi 444-3505, Japan.

Corresponding author: Takafumi Tatewaki. E-mail: t-tatewaki@uhe.ac.jp

原稿受付 2021年10月31日。Manuscript received Oct. 31, 2021.

原稿受理 2022年1月5日。Manuscript accepted Jan. 5, 2022.

キーワード: 糞調査, 神社, 植林地, 土地利用, 分断化。

Key words: fecal survey, shrine, conifer plantation, land use, fragmentation.

岡崎市においても、ムササビは準絶滅危惧種に選定されており(岡崎市, 2018), 市内の生息状況については、東部のくらがり溪谷において痕跡の観察記録があることや(宮尾ほか, 1984), 1981年に旧額田町の全戸に対して行われたアンケート調査により大雨河、夏山、宮崎、形埜、下山の各地域に生息すると回答されたことが知られている(額田町史編集委員会, 1986a)。これらに加え、近年、市内東部の男川流域の11地点で生息が確認されるなど、分布が局所的ではないことが確認されつつある(立脇・武田, 2018)。しかしながら、アンケート調査には誤同定が含まれている可能性があることや、これまでの調査のほとんどは市内東部の男川流域のものであることから、岡崎市内全域のムササビの分布状況は、いまだに明らかになっていない。岡崎市内の生息分布を明らかにすることができれば、豊田市・岡崎市・豊川市にまたがってムササビが連続的に分布するか否かを評価できるであろう。

そこで本研究では、岡崎市におけるムササビの分布を明らかにし、愛知県内のムササビの分布の連続性を検討した。

材料と方法

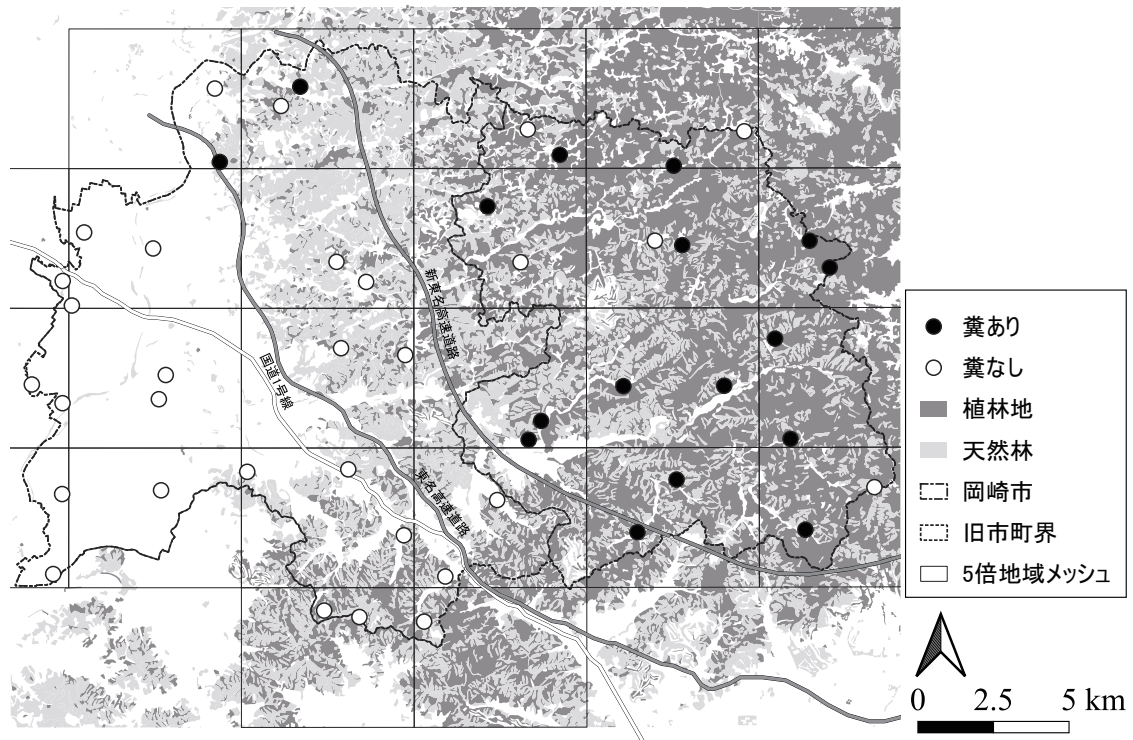
調査地は岡崎市内全域である(第1図)。岡崎市は市域の59.5%が森林で被われており、その約60%が人工林である(愛知県2019年度愛知県林業統計書 <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/rinmu/2019ringyoutoukeisho.html>にて2021年12月23日閲覧)。現在の岡崎市は市内西部に位置する旧岡崎市と、市内東部に位置する旧額田町が2006年に合併したものであり、市内の植生は旧市町によって大きく異なる。市内の西部にある旧岡崎市は、西三河の中心都市として早くから文化が開け、人によって山林が利用されてきた地域であり、1980年頃の山地の大部分は、クロマツまたはアカマツを主体とする二次林、コナラ、アベマキ林、またはクロマツ、スギ、ヒノキ等の植林地に被われていたが(大原, 1985)、近年は、落葉広葉樹や常緑広葉樹の二次林が広がりつつある(環境省生物多様性センター自然環境保全基礎調査第6回・第7回植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-043.html>にて2021年12月23日閲覧)。一方、旧額田町では、明治末期の1900年代前半からスギ、ヒノキ、マツなどの植林が進められており(武田・立脇, 2018)、1980年頃の山地は、主に植林されたスギやヒノキ、クロマツ等が、アカマツを主体とする二次林で

被われていたが(額田町史編集委員会, 1986b)、近年は、スギやヒノキなどの針葉樹の植林地が広範囲に見られる(環境省生物多様性センター自然環境保全基礎調査第6回・第7回植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-043.html>にて2021年12月23日閲覧)。また、岡崎市の南東部には、交通量の多い国道1号線が走っており森林が南北に分断されている。

岡崎市内のムササビの生息分布を明らかにするために、レッドデータブックあいち2020(愛知県, 2020)で採用されている5倍地域メッシュ(約5km×5km, 以下、メッシュと呼ぶ)で岡崎市を25メッシュに区切り、各メッシュに1から3点の調査地点を設けた。調査地点にはムササビの生息地として知られる社寺林を選んだが、社寺林がない場合は、スギやヒノキの植林地を調査地点として選んだ(青木ほか, 2006)。スギやヒノキの植林地もない場合には、そのメッシュ内で一般的な林や公園を調査地点とした。林のないメッシュには調査地点を設けなかった。

調査は2020年10月から12月に計6日間行った。5人から8人の調査グループを2つ作り、1日あたり、調査グループごとに2つのメッシュの調査地点で調査を行った(1日当たり約8地点)。各調査地点では、立脇・武田(2018)を参考に10本の木を選定し、糞による生息分布調査を行った。まず、それぞれの調査地点の林縁において、ムササビの糞が見つかりやすい直径の大きな針葉樹(スギ・ヒノキ)(繁田ほか, 2010)を優先して調査木とし、針葉樹がない場合、直径の太い他の樹種を調査木とした。次に、調査木の根本の周囲50cm以内のムササビの糞の有無を記録した。木の根本に枯葉が多い場合には、枯葉を取り除きながら地表面にあるムササビの糞を探した。調査木の根本を2分以上探してもムササビの糞が見つからない場合には、その木の根本にムササビの糞はないと判断した。調査地点においてムササビの糞が見つかった場合には、その調査地にムササビが「生息する」と判断し、見つからなかった場合には、その調査地にムササビは「生息しない」と判断した。なお、ムササビの糞は5mm程度の球状であり、糞を割ると繊維質であるために他種の糞と区別できた(岡崎, 1999)。

岡崎市内において植生に相違が認められる旧岡崎市と旧額田町の間(環境省生物多様性センター自然環境保全基礎調査第6回・第7回植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-043.html>にて2021年12月23日閲覧)において、ムササビの生息状況に違いがあるかどうかを明らかにするために、調査地点ごとの生息有無を用



第1図. 岡崎市内のムササビの分布.

糞が発見された調査地点を生息ありとした。旧市町界の西部が旧岡崎市，東部が旧額田町である。環境省生物多様性センターによる第6回・第7回植生調査の植生図 (<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-043.html>) のうち，植林地と天然林（落葉広葉樹林，暖温帯針葉樹林，常緑広葉樹二次林，落葉広葉樹二次林，常緑針葉樹二次林，沼沢林，常緑針葉樹二次林，河辺林）を示した。また，行政区界（国土数値情報行政区画データ 令和2年度および平成17年度 <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>），5倍地域メッシュ（G空間情報センター <https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/biodic-mesh>），道路（Open Street Mapより著者作成）を著者が改変して示した。

Fig. 1. Distribution of Japanese giant flying squirrels in Okazaki, Aichi Prefecture.

The survey points where feces were found were considered to be inhabited. The area west of the former city boundary is the former Okazaki City and east is the former Nukata Town. We showed plantation and naturally growing forest of vegetation map from 6th and 7th national surveys of the natural environment (<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-043.html>). We also showed administrative zone (<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>) and road of National Route 1 and highways (created by Open Street Map).

いた χ^2 検定（独立性の検定）を行った。統計解析に用いたソフトウェアはR 3.6.3（R Core Team, 2020）である。調査で得られた生息情報はQGIS 3.10.5（QGIS.org, 2020）を用いて地図上に表示した。また，岡崎市周辺のムササビの分布の連続性を確認するために，レッドデータブックあいち2020の生息情報とともに，本研究で明らかになった生息メッシュを地図上に示した。なお，レッドデータブックあいち2020のメッシュは日本測地系による5倍地域メッシュであるため（子安私信），本研究の成果もそれに合わせて表示した。

結果

岡崎市内の47地点で調査を行った結果，計17地点

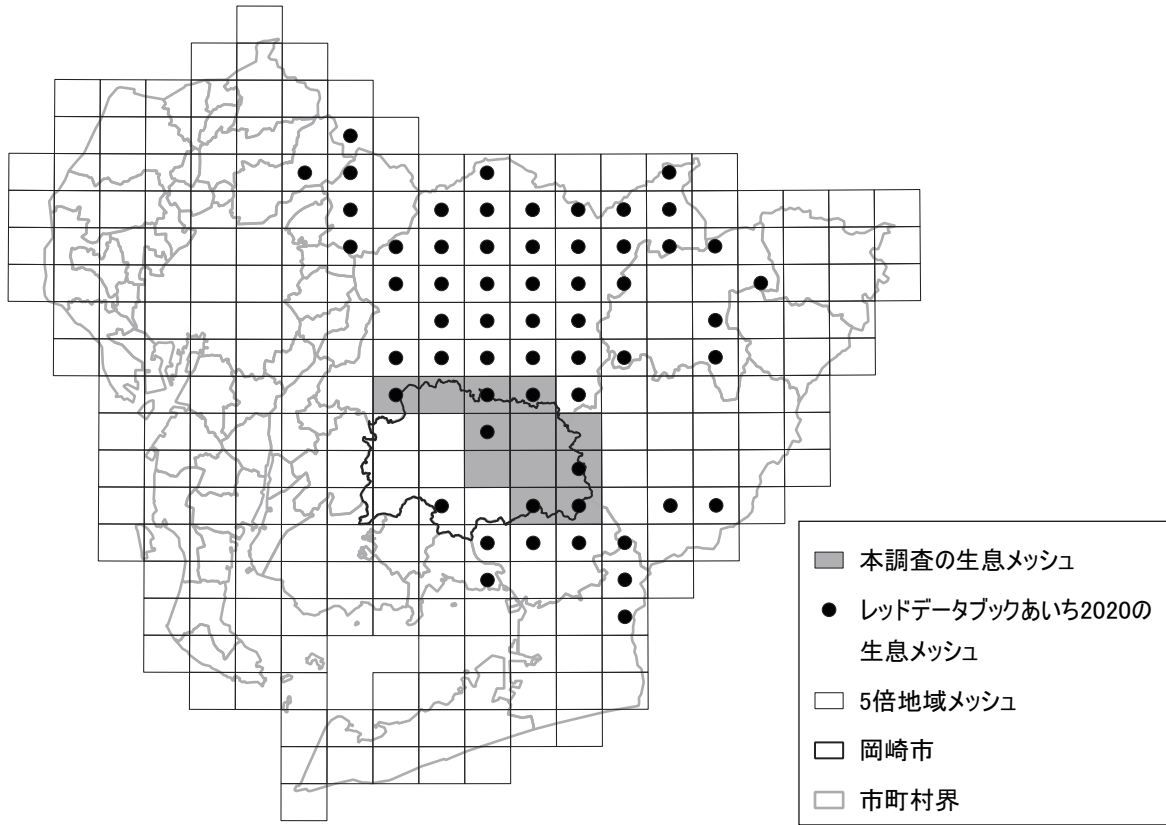
（36.2%）でムササビの生息が確認された（第1図，第1表）。ムササビの生息が確認されたのは岡崎市内の東部と北部であり，市内西部の市街地や農耕地に囲まれた調査地点や，国道1号線の南側の調査地点では生息が確認されなかった。合併前の旧市町で集計すると，旧岡崎市では27地点中2地点（8.0%），旧額田町では20地点中15地点（75.0%）で生息が確認され，旧額田町の方が旧岡崎市よりもムササビの生息確認割合が有意に高かった（ $\chi^2 = 19.903$, $df = 1$, $p < 0.01$ ）。ムササビの生息が確認された調査地点の周囲には，植林地が多かった。

メッシュ単位で集計すると，調査した25メッシュのうち，ムササビの生息が確認されたのは12メッシュ（48.0%）であった（第2図）。レッドデータブックあ

第1表. 調査地点ごとの緯度経度, 調査地タイプ, メッシュコード, および糞の有無.
 “S”は神社を, “C”は針葉樹植林地を, “O”はその他を示す.

Table 1. Coordinate, type, mesh code, and results of fecal survey.
 “S”, “C”, and “O” indicate shrine, conifer plantation, and the others, respectively.

番号	5倍地域 メッシュ	緯度	経度	調査地タイプ	調査年月日	糞の有無
No.	Mesh Code	Latitude	Longitude	Type	Date	Feces
1	52373222	34.9223117	137.288532	S	2020/10/2	○
2	52373222	34.9279442	137.293087	S	2020/10/2	○
3	52373127	34.9496921	137.220619	C	2020/10/2	×
4	52373127	34.9476326	137.243869	S	2020/10/2	×
5	52372372	34.908014	137.413686	O	2020/10/16	×
6	52372372	34.895362	137.388682	O	2020/10/16	○
7	52372277	34.9103979	137.3420708	S	2020/10/16	○
8	52372277	34.8947214	137.327887	S	2020/10/16	○
9	52373172	34.9794478	137.152553	O	2020/10/30	×
10	52373172	34.984218	137.127556	S	2020/10/30	×
11	52373077	34.9697369	137.1197872	S	2020/10/30	×
12	52373077	34.962426	137.12311	S	2020/10/30	×
13	52372222	34.871443	137.214464	C	2020/11/6	×
14	52372127	34.8695227	137.22723	O	2020/11/6	×
15	52372127	34.8681347	137.250633	C	2020/11/6	×
16	52373372	34.9815436	137.390436	C	2020/11/13	○
17	52373372	34.97356	137.39771	O	2020/11/13	○
18	52373277	34.9802915	137.344287	O	2020/11/13	○
19	52373277	34.981655	137.334397	S	2020/11/13	×
20	52372077	34.882342	137.116401	S	2020/11/27	×
21	52372077	34.906196	137.119625	O	2020/11/27	×
22	52372172	34.9073229	137.155433	S	2020/11/27	×
23	52372172	34.9128345	137.186631	S	2020/11/27	×
24	52373272	34.9752861	137.285687	S	2020/10/2	×
25	52373272	34.9919265	137.273719	S	2020/10/2	○
26	52373177	34.9754326	137.218994	O	2020/10/2	×
27	52373177	34.9694494	137.229744	S	2020/10/2	×
28	52373227	34.938277	137.322883	S	2020/10/16	○
29	52373227	34.9383446	137.35937	S	2020/10/16	○
30	52373322	34.952366	137.37785	S	2020/10/16	○
31	52373322	34.92246	137.383356	S	2020/10/16	○
32	52374122	35.0052383	137.176733	S	2020/10/30	○
33	52374122	35.027139	137.174917	S	2020/10/30	×
34	52374127	35.02194	137.198925	S	2020/10/30	×
35	52374127	35.0276799	137.205873	S	2020/10/30	○
36	52372272	34.9043667	137.277117	S	2020/11/6	×
37	52372272	34.8815813	137.258323	S	2020/11/6	×
38	52372177	34.8938809	137.243319	S	2020/11/6	×
39	52372177	34.913554	137.223215	S	2020/11/6	×
40	52374227	35.0039888	137.341228	S	2020/11/13	○
41	52374227	35.0142233	137.366827	O	2020/11/13	×
42	52374222	35.007297	137.299976	S	2020/11/13	○
43	52374222	35.014862	137.288353	S	2020/11/13	×
44	52373122	34.9417094	137.157134	O	2020/11/27	×
45	52373122	34.934493	137.1546299	O	2020/11/27	×
46	52373027	34.9332935	137.119746	S	2020/11/27	×
47	52373027	34.9388723	137.108627	S	2020/11/27	×



第2図. 岡崎市周辺のムササビの分布状況.

本研究とレッドデータブックあいち 2020 (愛知県, 2020) の生息メッシュを示す。また、行政界 (国土地理院 地球地図 日本 第 2.1 版ベクタ 行政界 https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/gm_jpn.html) および 5 倍地域メッシュ (G 空間情報センター <https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/biodic-mesh>) を著者が改変して示した。

Fig. 2. Distribution of Japanese giant flying squirrels around Okazaki, Aichi Prefecture.

The habitat meshes of this study and Red Data Book Aichi 2020 (Aichi Prefecture, 2020) are shown. We also showed administrative zone (https://www.gsi.go.jp/kankyochiri/gm_jpn.html) and 5 km mesh (<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/biodic-mesh>).

いち 2020 の生息確認メッシュと比較すると、レッドデータブックあいち 2020 で生息が確認されていた岡崎市内の 9 メッシュのうち、市内北部の 7 メッシュでは生息を確認できたが、市内南部の 2 メッシュでは生息を確認できなかった。また、本調査では、レッドデータブックあいち 2020 で生息が確認されていなかった 5 メッシュで、新たに生息が確認された。

考 察

岡崎市の東部と北部にムササビが連続的に分布していることが明らかになった (第 1 図)。旧市町単位で見ると、西部の旧岡崎市にはほとんど生息せず、東部の旧額田町に偏って生息することがわかった。これまでも旧額田町では、散発的な記録が見られていたが (宮尾ほか, 1984; 立脇・武田, 2018), 本研究によ

てはじめて、旧額田町の全域に分布することが示された。旧額田町は、スギやヒノキなどの植林地が広がる地域であるが、町内には巨樹やよく発達した二次林 (額田町史編集委員会, 1986b), 共有林として維持されてきた社寺林があることも知られている (武田・立脇, 2018)。こうした場所に残された巨樹の洞などが、ムササビの生息を支えてきたと考えられる。

一方、旧岡崎市については、矢作川沿いの市街地や農地に囲まれた調査地点だけでなく、森林に囲まれた調査地点においても、ムササビの生息がほとんど確認されなかった。旧岡崎市は西三河の中心都市として栄えた地域であったことから、人による森林の利用が盛んであり、1980 年代になっても、アカマツ林やコナラ林などの二次林が優占する地域であった (大原, 1985)。現在、旧岡崎市の地域には、落葉広葉樹林や常緑広葉樹林があるのにも関わらず、ムササビがほと

んど生息していないのは、依然としてムササビに適した大木が少ないことを示しているかもしれない。ただし、宮尾ら（1984）はムササビがスギ林に依存していることを示唆しており、スギの植林地の多寡がムササビの分布を規制している可能性も否定できない。社寺林にスギが多いことも考慮すべき要因である。

メッシュ単位で岡崎市周辺のムササビの生息状況を確認すると、豊田市から豊川市に至るまで、岡崎市を介してムササビが連続して分布していることが明らかになった（第2図）。ムササビの行動圏はメスで1.0–1.5 ha、オスで2.0–3.0 haであるため（Oshida, 2015）、約5 km四方のメッシュの間で個体が交流するのは困難なように思われるが、旧額田町の調査地点の75.0%に生息していたことを考えると、旧額田町と同様の環境であれば、メッシュ間の個体の交流が可能であることが示唆される。

一方で、岡崎市内の国道1号線の南側ではムササビの生息が確認されなかった。糞の量や調査木あたりの糞発見率が密度指標になると考えられているのと同様に（今関ほか, 2016）、糞を発見した調査地点の割合が生息密度の指標になるとするならば、国道1号線の南側については、生息密度が低いと考えられる。同じく国道1号線の南側の森林を含む蒲郡市や豊川市（旧音羽町・御津町）の社寺林では、1983年から1984年の調査において、17地点のうち2地点（11.8%）でムササビの生息が確認されており（神戸, 1984）、旧額田町（75.0%）と比べて生息密度が低いことが示唆される。この発見率の低さは、神戸（1984）と同様の地域において、2020年から2021年にかけて行われた調査でも確認されている（森・尾崎, 2021）。ムササビは72 m滑空した記録（安藤・今泉, 1982）があるが、国道1号線の北と南の林縁の間は100 m以上離れている場所がほとんどであることを考えると、個体の交流は困難だと考えられる。国道1号線の南側の森林に生息するムササビの個体群は、北部の個体群とは別のものだと考え、今後の動向を注視していく必要があるだろう。

本研究では、愛知県のムササビが岡崎市東部の旧額田地域に広く生息していることを、主に社寺林の糞調査によって明らかにした。この方法は、効率的に分布状況を把握できる一方で、ムササビの生息密度が低く糞が少ない場合や（今関ほか, 2016）、糞虫によって糞が分解された場合に、生息が確認できなかった可能性がある。また、本調査は主に社寺林を調査地点にしたが、社寺林にムササビが生息していることが、周囲

の森林にも生息していることを示すものではない。今後は、未調査の社寺林や森林内の生息状況を調査し、複数年にわたってモニタリングしていくことで、準絶滅危惧種に指定されている本種の生息状況を、より正確に評価していくことができるだろう。

謝 辞

人間環境大学人間環境学部環境科学科の生藤晃大氏、池田紗氏、岡山祥子氏、川端真輝氏、岸村晋作氏、幸村帆夏氏、高津美奈氏、田中孔友氏、津田美咲氏、長尾祐暉氏、中西葉新氏、西澤柚氏、吉持昌士氏には、調査や結果の取りまとめに協力いただいた。彼らの協力なくして、多地点での調査はなしえなかった。ここに御礼申し上げる。

引用文献

- 愛知県, 2020. レッドデータブックあいち2020 – 動物編 –. 769 p. <http://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/index.html> (2021年10月30日閲覧).
- 安藤元一・今泉吉晴, 1982. 狭小生息地におけるムササビの環境利用. 哺乳動物学雑誌, 9 (2) : 70–81.
- 青木雄司・重昆達也・繁田真由美・柳川美保子・蓮田弘美・山口尚子・竹内時男・小林俊元・佐藤 健・二宮孝子・早川広美, 2006. 神奈川県におけるムササビの分布. 神奈川県自然誌資料, 27 : 27–40.
- 今関真由美・吉田真也・安藤元一, 2016. 糞分布から見た孤立林地におけるムササビ *Petaurista leucogenys* の生息状況. 森林野生動物研究会誌, 41 : 19–26.
- 神戸 敦, 1984. 豊橋地方におけるムササビの生息分布. 蟲譜, 23 (1) : 29–31.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2010. 第3部 動物分布図 (哺乳類). 日本の動物分布図集. 53–88. <https://www.biodic.go.jp/kiso/atlas/> (2021年10月30日閲覧).
- 子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝, 2016. XIV 哺乳類. 豊田市生物多様性調査報告書 <分冊その3>. <https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/kankyou/sizen/1016111.html> (2021年10月30日閲覧).
- 宮尾嶽雄・花村肇・高田靖司・酒井英一, 1984. ムササビ *Petaurista leucogenys*. 佐藤正孝・安藤 尚 (編), 愛知の動物, 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋, 295–296.
- 森 拓矢・尾崎敬代, 2021. 東三河南部地域におけるムササビの生息状況. 蟲譜, 60 (1) : 13–16.
- 額田町史編集委員会, 1986a. 哺乳類. 額田町史, 額田町, 41–

46.
額田町史編集委員会, 1986b. 額田の植生. 額田町史, 額田町, 64–66.
- 大原準之助, 1985. 岡崎市の植物相. 新編岡崎市史編集委員会 (編), 新編岡崎市史 自然, 新編岡崎市史編さん委員会, 岡崎, 273–335.
- 岡崎弘幸, 1999. 東京都におけるムササビ *Petaurista leucogenys* の分布と生息地の分断化. 哺乳類科学, **39** (1) : 169–173.
- 岡崎市, 2018. 第2次岡崎市版レッドリスト2018. https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1564/1622/p022595_d/fil/honbun.pdf (2021年12月23日閲覧).
- Oshida, T., 2015. *Petaurista leucogenys* (Temminck, 1827). Ohdachi, S.D., Ishibashi, Y., Iwasa, M.A., Fukui, D. and Saitoh, T. (eds), *The Wild Mammals of Japan Second Edition*, Shoukadoh, Kyoto, 200–201.
- QGIS.org, 2020. QGIS Geographic Information System. QGIS Association. <http://www.qgis.org> (2021年10月30日閲覧).
- R Core Team, 2020. R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria. <https://www.R-project.org/> (2021年10月30日閲覧).
- 繁田真由美・莊司たか志・重毘達也・安藤元一, 2009. 東京都町田市におけるムササビ孤立個体群の生息環境. 森林野生動物研究会誌, **34** : 37–43.
- 繁田真由美・繁田祐輔・田村典子, 2010. 生息痕跡によるムササビの生息地利用の解析. 森林野生動物研究会誌, **35** : 13–21.
- 塩沢徳夫・野口光昭・岡田比呂子, 1985. 神奈川県におけるリス類 (ムササビ・ニホンリス・タイワンリス) の生息状況について. 神奈川県立自然保護センター研究報告, (2) : 15–27.
- 武田 淳・立脇隆文, 2018. 岡崎市宮崎地区における林野の形成—針葉樹林の出現と共有地の再編成—. 地域活性化研究, **17** : 33–43.
- 立脇隆文・武田 淳, 2018. 額田地域・男川流域の神社や針葉樹林におけるムササビの生息状況. 地域活性化研究, **17** : 24–33.
- 矢光啓志・橋本善太郎・松尾友矩, 2008. 南多摩地域の丘陵地におけるムササビの分布情報解析. 野生生物保護, **11** (2) : 11–18.

(要 旨)

立脇隆文・伊與田翔太・中嶋靖男：愛知県岡崎市におけるムササビの分布

愛知県岡崎市のムササビの分布を明らかにするために、2020年10月から12月にかけて、社寺林など47地点において、主に針葉樹の根元にあるムササビの糞の有無を調査した。その結果、17地点(36.2%)でムササビの生息が確認された。ムササビの生息が確認されたのは、市内の東部と北部であり、西部の市街地や農耕地に囲まれた調査地点や、国道1号線以南の調査地点では生息が確認されなかった。現岡崎市内の旧岡崎市域と旧額田町域では、旧額田町(20地点中15地点; 75.0%)の方が旧岡崎市(27地点中2地点; 8.0%)よりもムササビの生息確認割合が高かった。5倍地域メッシュ単位で集計すると、調査した25メッシュのうち、ムササビの生息が確認されたのは12メッシュ(48.0%)であり、「レッドデータブックあいち2020」で生息が確認されていなかった5メッシュで、新たに生息が確認された。今回の調査によって、ムササビは岡崎市内の旧額田町に広く生息することが確認され、周囲の豊田市や豊川市と連続して分布することが明らかになった。